



- 1 前日の米国市場、ことに店頭株式市場（ナスダック）総合指数の下落に大きな影響を受けていること
- 2 日米ハイテク企業の業績鈍化観測が強まっていること
- 3 年初来の安値水準を下回ったことで株式相場は下値の目安を見失った状態に陥っている
いっぽう米国株式相場も再び下値模索の様相を強めていること
- 4 政局の不透明感を嫌気する空気
- 5 ②③④により、株式市場には投資家の弱気心理が証券会社自己売買部門の売りに加え、一部の事業会社や銀行などからも損失覚悟の売り注文が広がった模様





(3)の「年初来の安値水準を下回った」というようなテクニカル要因は、そもそも過去から現在に至った株価の動きを忠実に中立的に表しているにすぎません

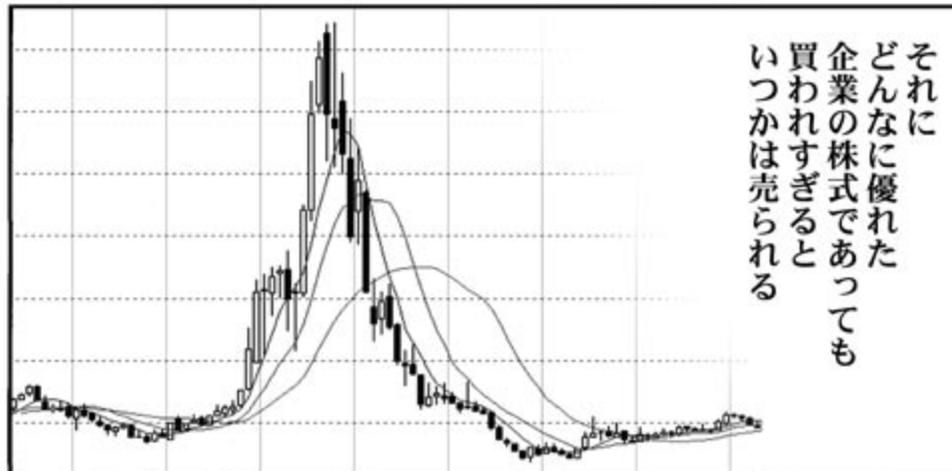
テクニカル要因はその解釈がすべてだと言えます！

テクニカルの指示で売買をするというのなら、まさしく投機的と言えるでしょう

テクニカル要因=投機的



例えば
トレンドラインの
支持線を信じて
買った人は…
そのレベルが
抜かれたなら
売ってくるもの
なんです



この一本のローソクのようなものがある期間の寄り値・引け値と高値・安値を表しています

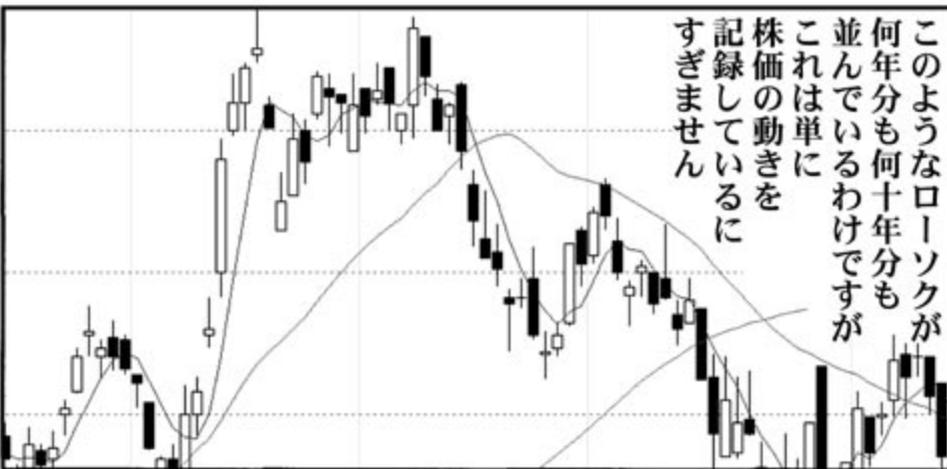
これは日足といって株価の1日の動きを表しています

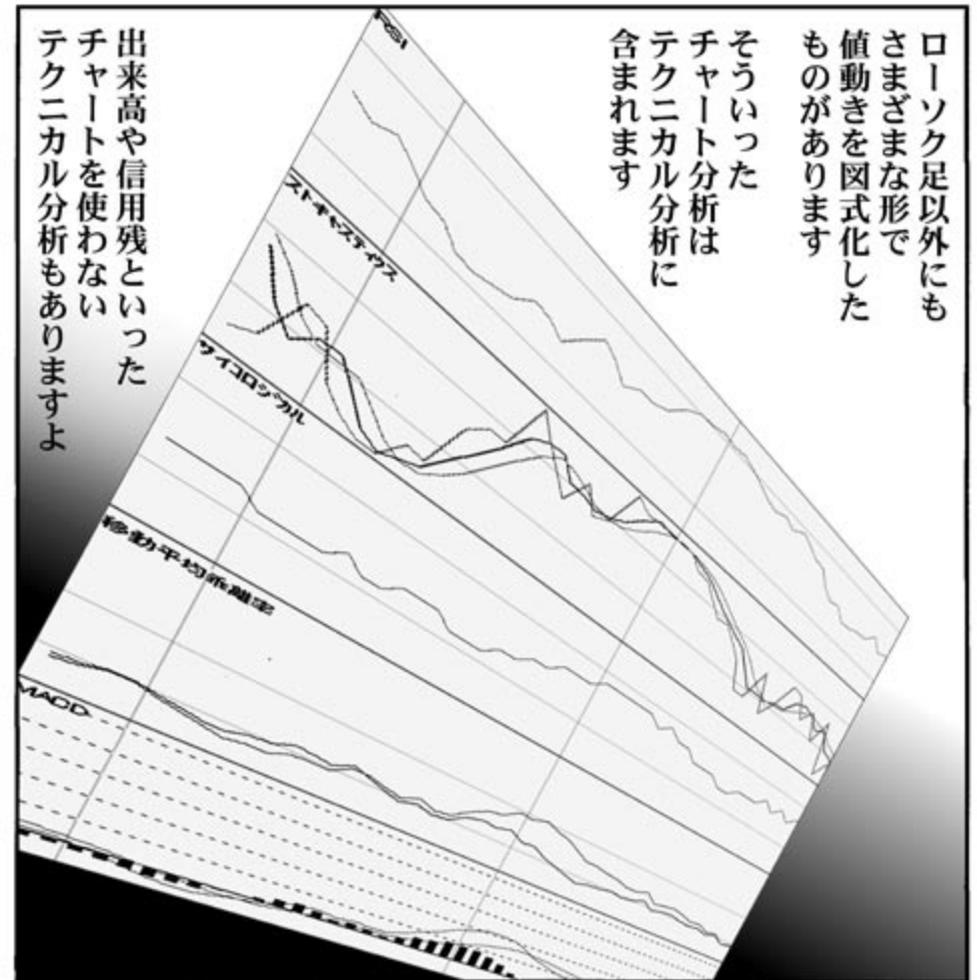
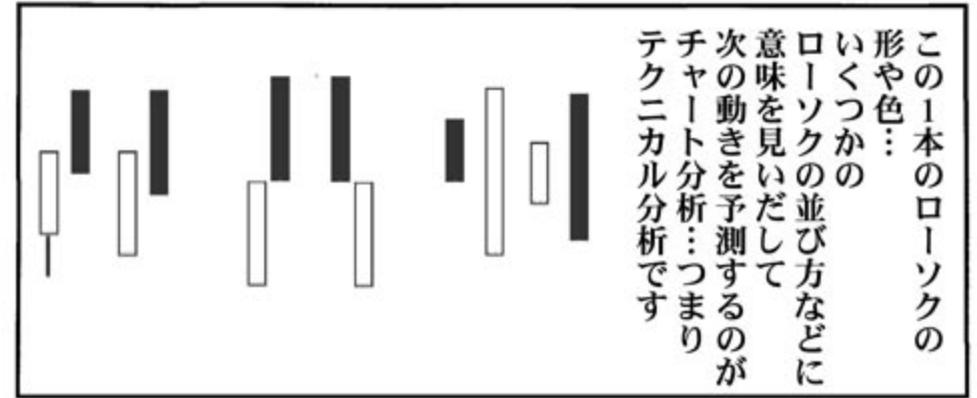
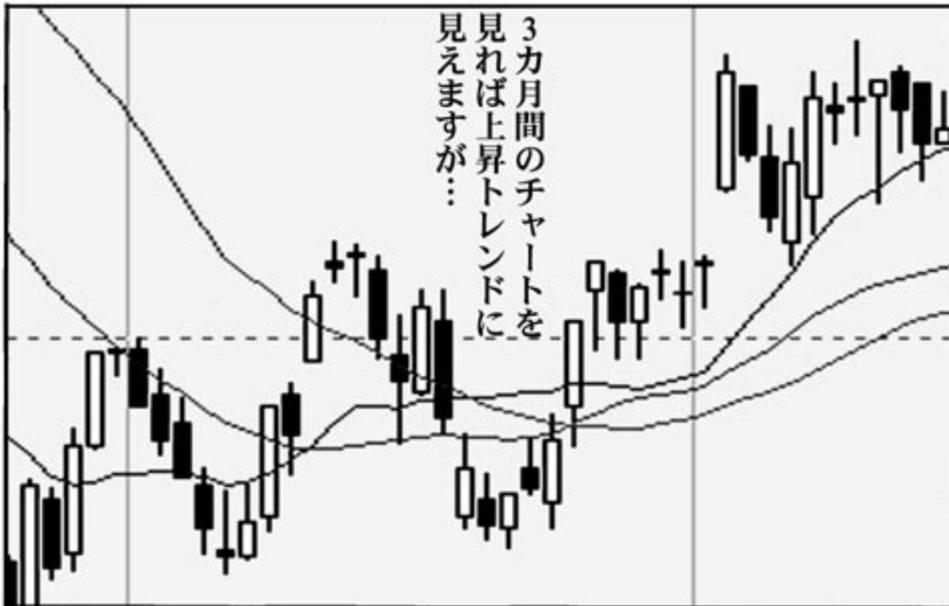
白っぽく見えているローソクは寄り値より引け値が高い日つまり上げ相場の日なんです

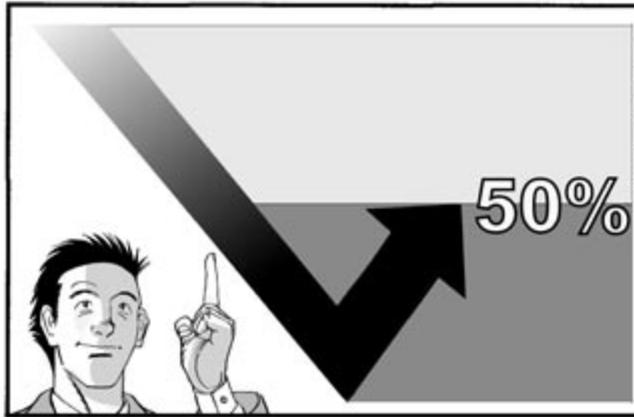
黒いのは寄り値より引け値が安い日つまり下げ相場の日です
おわかりですね

高値
始値
終値
安値

高値
終値
始値
安値



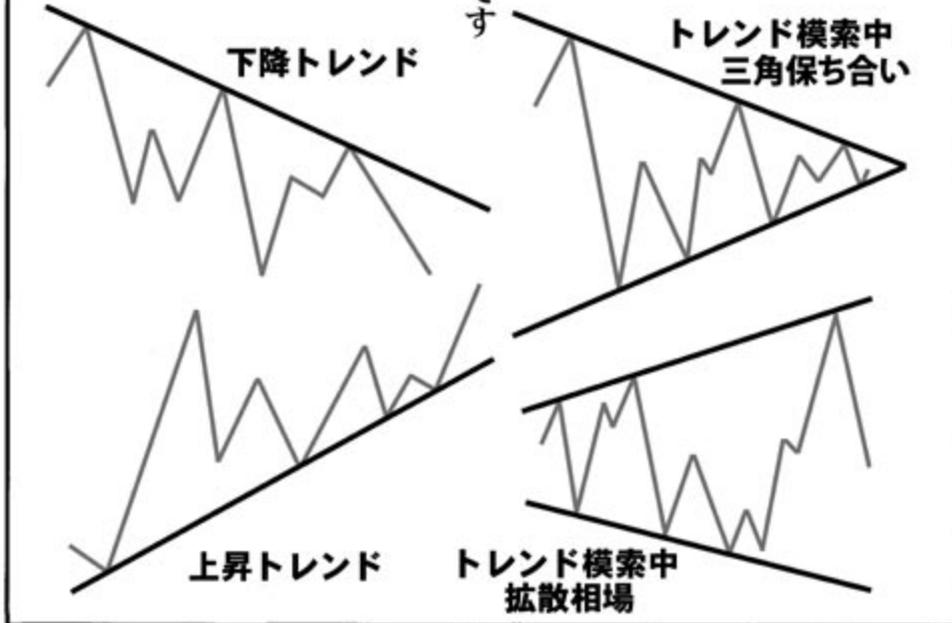




半値戻しというのは
 上げ下げしたものが
 50%の水準まで
 戻ることですが…
 起点にする
 安値・高値が変われば
 違うものが見えてきます

トレンドライン
 というのは
 相場が
 上昇トレンドなのか
 下降トレンドなのか
 トレンジ模索中の
 保ち合いなのかを
 チャートに
 いろいろ線を引いて
 探っていくものなんです

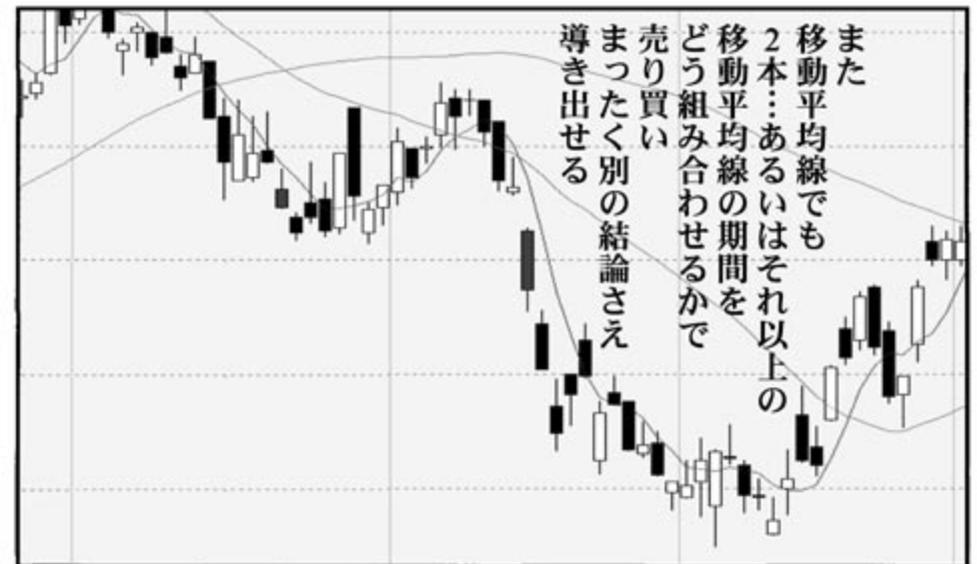
下値を結んだ線が
 切り上がっていれば
 上昇トレンドと言
 いその線を支持線と
 言いますが…
 どの下値を結ぶかで
 違って見えてきます




それを1年に伸ばせば
 やっと2割近く
 戻っただけの
 下落トレンド
 だったります

こんなに
 下がっていたんだー

わー



また
 移動平均線でも
 2本…あるいはそれ以上の
 移動平均線の期間を
 どう組み合わせるかで
 売り買い
 まったく別の結論さえ
 導き出せる





でも
金融機関などの
株式持ち合いの
解消売りは
構造的ですね
将来にわたって
株式市場に影響を
与えうるということですよ

持ち合い 解消売り II 構造的

このことは
あとでもう少し
詳しく説明します

(6)の「証券会社
自己売買部門の
売りに加え
一部の事業会社や
銀行などからも
損失覚悟の売り」
というのは実際に誰が
売っているのか
といった分析ですね

ここまでの分析で
明らかにになってきたのは
中立である
テクニカル要因をのぞけば
どの要因も構造的とも
言えますが：
同時に投機的でも
ありうるよ
ということですよ

とはいえ
この2つを区別して
理解するクセを
つけておかないと
いつまでたっても
相場を「構造的に」
理解することが
できないから
気にとめておいて
ください

構造的 投機的

自己売買部門って…
よく聞きますが
どんなところ
なんですか？

次に
構造的な要因について
本質的なところを
簡単に説明しましょう

証券会社や銀行が
自己資金を使って
市場で売買する部門の
ことを言います
ディーラーとも言って
とても激しく売買を
繰り返します

証券会社の
売りというのは
ほとんどの場合が
投機的で
目先の材料に
すぎません

買い!
売り!
買い!
売り!